



切り絵 毛利得範

まもなく4月です。そろそろ桜も開花する頃になりましょうか、季節もすっかり春らしくなってきました。

春と言えば、新河岸川流域各支川の川づくりの会においても、水質調査や自然観察、春の川まつりなど、春のイベントが始まります。流域の人々とひとつになっての川遊びや体験学習など、交流の機会が増えていくことでしょう。

今号では、そんな流域の学生さん達の総合学習等の発表を通じて交流の機会を設けた「川でつながる発表会」や、回を重ねて第5回になりました川づくり見学会「白子川見学会・交流会」の報告などを掲載しています。

目次

- P2-4 特集：川でつながる発表会
小学生から大学生まで川・水に関する発表をして交流！
- P5 レポート(イベント×2)：
食べて語って入曽のうどん！
「河童のつづら検定」表彰式
- P6-7 特集：第5回川づくり見学会
～白子川見学会・交流会～
- P8 流域イベント・インフォメーション
新所沢事務所通信

第1回「川でつながる発表会」

小学生から大学生まで川・水に関する発表をして交流！



の報告です！

新河岸川流域の各支川では、さまざまな川づくり活動が市民団体によって行われています。また、川まつり等を通して流域住民への理解醸成を行っています。一方、流域内の各学校においても、子ども達の総合学習教育の一環として川をテーマにした学習活動が行われています。これらは子どもの時から川に対する理解を深めるという点において望ましいものと考えられます。

この発表会は、「川」をテーマにした総合学習をさらに多くの学校で取り組んでもらう一助するとともに、学習・研究成果の発表を通して、流域住民の川への関心を醸成し、川づくり活動への理解を深めてもらうことを目的に実施しました。

■去る3月5日(土)、前日の大雪が嘘のように朝から晴れ渡った青空の下、志木市市民会館「パルシティ」にて「第1回 川でつながる発表会」を開催しました。参加した、小学校4校、中学校2校、高校2校、大学2校の計10校に、日頃の総合学習の成果や川や環境等に関する調査・研究の成果を発表してもらいました。

■国土交通省荒川下流河川事務所の榎さんのあいさつで幕を開け、はじめに基調講演として、所沢高校教諭の正田浩司先生に「新河岸川流域の川と地形」をテーマにお話いただきました。正田先生は、「となりのトトロ」のビデオを見せたり、地形の絵を描かせたりと、参加者との一体感のある講演で会場を盛り上げてくれました。



会場狭しと歩き回る正田先生。参加者の描く地形のイメージをチェックしています。

■そして発表へと続きます。まずは、小学校4校。五十音順に、朝霞市立朝霞第三小学校、川越市立寺尾小学校、志木市立志木小学校、所沢市立牛沼小学校の順に発表しました。

朝霞市立朝霞第三小学校
黒目川の歴史について
黒目川の水はなぜ透明なのか



最初の発表は朝霞第三小学校の生徒さん達です。昔の黒目川の様子や、黒目川に関する昔話などについて発表しました。

志木市立志木小学校
環境教育 柳瀬川自然



志木小学校の生徒さん達は、柳瀬川の自然について発表しました。エコシティ志木さんから指導を受けているとのことでした。



川越市立寺尾小学校
わたしたちの新河岸川
～わたしたちにできること～

寺尾小学校の生徒さん達は新河岸川の汚れの原因と対策について発表しました。市民団体代表へのインタビューも実施したようです。



所沢市立牛沼小学校
東川の環境について

牛沼小学校の生徒さん達は、東川の環境について発表しました。実地調査やインタビュー、書籍やネット検索など、熱心に調べている様子が伝わりました。

小

■続いて中学校の発表です。朝霞市立朝霞第五中学校と和光市立第二中学校の2校が発表しました。

朝霞市立朝霞第五中学校
新河岸川と荒川の
環境は今



朝霞第五中学校は、新河岸川と荒川の現状について発表しました。身近な川の変化や現状について知りたいとの思いから調査を実施しているとのことでした。



和光市立第二中学校
川が創る豊かな生態系

和光第二中学校は、ピオトープの取り組み等を発表しました。学校に通ったピオトープ池には様々な動物の生態系が見られるようです。なお、発表の最後にはBGMも流れました。

中



質疑・応答

小・中学校は、発表者全員が揃っての質疑応答になりました。質問よりもお褒めの言葉が多く聞かれました。

■休憩時には川づくり連絡会メンバーによるパネル展と新河岸川及び各支川の航空写真展示を実施、川づくり団体の皆さんと参加校の先生方、展示物を見て疑問を投げかける子供たちなど、川づくりに関する交流を深めました。



左) パネル展と出前水族館 右) 航空写真展示

■休憩後は高校生の発表です。自由学園男子部高等科と埼玉県立所沢西高等学校の2校が発表しました。

自由学園男子部高等科
校内を流れる
立野川の調査



後半は、自由学園高等科の生徒さん達の、校内を流れている立野川についての調査発表から始まりました。季節による水量の変動が大きいようでした。



埼玉県立所沢西高等学校
砂川流域水質調査
(化学的水質分析及び指標生物による水質判定)

所沢西高の生徒さん達は砂川流域の水質調査について発表しました。今後も水質データを蓄積していきたいとのことでした。

高

■発表の最後は大学が2校です。東京理科大学と早稲田大学が発表しました。

東京理科大学
これからの市民参加
の川づくりを考える
～白子川整備検討会を通じて～



東京理科大は市民参加の川づくりについて発表。親水護岸の提案や川づくりへの問題提起がありました。



早稲田大学
湿地保全の意義と
活動紹介

最後の発表校は早稲田大学です。校内にある湿地保全の取り組みについて発表しました。写真は傍聴者との質疑応答の様子です。

大

■発表後の総評は、砂川堀流域川づくり懇談会代表の永石文明さんにお願しました。永石さんからは、調査は大事であり発表することがまた重要であること、川を学ぶには自然を知ることが大事であること、川づくりはいかに地域の人を巻き込むかが重要である...等のお話がありました。

総評は永石さんにお願しました。



■そして最後に表彰式を行いました。今回は全ての参加校に表彰状が授与されました。中には、表彰内容の朗読を待ちきれずに手を伸ばす小学生があり、会場の笑いを誘って、緊張がほころぶ一幕もありました。

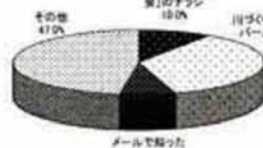


表彰状を手渡す横議長

発表者の程良い緊張感と傍聴者のつくるアットホームな雰囲気の中で、とても良い時間が共有できました。

アンケートで見る参加者の意見など！

こちらは、当日の参加者に記入してもらったアンケートの集計結果です。約45%の方がご回答下さいました。



Q1：「川でつながる発表会」の開催をどのようにして知りましたか？

「川づくり連絡会メンバーから聞いた」が35.7%で最も多くなりましたが、「その他」が47.6%もありました。「先生から伝えられた」「発表する子どもから聞いた」などが多かったようです。

Q2：今回ような催しについてどのように思われますか？

「子ども達が普段川についてどのようなことを考えているかが分かった」が30.6%で最も多く、次いで「こうした企画は川への住民の関心を高めることにつながる」が26.5%、「今後もこうした企画があったら参加したい」が17.3%となりました。



Q3：今回の「川でつながる発表会」全体へのご意見・感想をお聞かせ下さい！(自由回答)

きれいな川はそれを未来に向けて守っていき、きたない川はそれなりに自分たちにできることをしてきれいにしていきたいです。今回の「川でつながる発表会」はいろんなことを詳しく知ることができてよかったです。(埼玉県在住/小学生/女性)

基調講演が勉強会の役割にもなり、また、多世代が集う川づくりの会は重要だと思った。これに参加した小学生が今後も川に興味をもって活動してほしい。(東京都在住/20歳代/男性)

普段あまり関心がなかったのですが、このような発表会に参加でき、水への興味を持つきっかけとなりました。素敵な環境ができるように(私ができることを)努力していきたいと思いました。(埼玉県在住/20歳代/女性)

小学生の段階から川と日常生活の関係(川を汚すのは我々の生活に原因がある等)に意識が及んでいることに驚いた。このような知識が広く普及するように、今日のような活動を大切にしていきたいと感じた。(埼玉県在住/20歳代/男性)

子ども達にこういう発表の場があり、大人が聞いて質問したり、感想を言ったりすることが、「やる気」につながっていくと思います。来年度もぜひ！(埼玉県在住/60歳代/女性) など

食べて語って入曾のうどん！



狭山市の入曾ではひと昔前まで、うどんがハレの日(特別な日)の食べ物でした。そんなうどんを手打ちして、味わって、地域のくらしや水の歴史について語ろうという「不老川流域川づくり市民の会」の皆さんの企画が、2月21日(月)に行われました。

うどんに釣られたわけではないと思いますが、地域住民が多数参加したこの企画、午前中のうどんづくりからはじまります。若いも若きも男性も女性も、皆、三角巾とエプロンで衛生管理はバッチリです。指導者の動作に合わせ、あだこうだと言いながらもうどんをつくります。こねて伸ばしてカットして、器用な人とそうでない人、うどんの太さもバラバラですが、そこは蕎麦じゃないのでご愛敬。食べてみればやっぱり美味しい。皆でつくったのだから、その美味しさは格別でした。

午後は会議室で、地域のくらしや水の歴史について語りあいました。ゲストには、こちらもうどんに釣られた(?)狭山市長が迎えられ、井戸やカルタや特産品など、ひと昔前の地域のようすを語って下さいました。参加者からは、戦前に入曾住民は魚や肉などの動物性蛋白をなかなか取れなかったという話がありました。また、水が乏しくお米が穫れず麦しかないような土地だったのだとうどんがごちそうだったとのことでした。

市長退席の後も昔話しに花が咲きます。戦前から入曾に住んでいる人に少し前に越してきた人が質問したり、参加している市民団体間の交流話話が盛り上がったり、それにしても皆、笑顔で楽しそうなのはなぜでしょう？初めて居合わせた方だっているだろうに？

なるほど「同じか釜の飯」を食った仲間じゃないけれど、やっぱり美味しい食事は人の心を豊かにするのです。今時はいつでもどこでも食べられるうどんですが、今日のうどんばかりは「ハレの日のうどん」と相成りました！

と云うことで、楽しく過ごしたこの時間の続きは、次回「食べて語って入曾のゆで馒头」を乞うご期待です！！



上)手打ちうどんづくりの様子
下)試食の様子。美味しそう！

「河童のつづら検定」表彰式

2月26日(土)には、先に本紙でも紹介した「河童のつづら検定」の表彰式が行われました。自然や言い伝え、文化財など、地域の宝をクイズにし、そのクイズに解答していくと自ずと自分達の住んでいるまち(志木市とその周辺)のことが分かっていくという「河童のつづら検定」。今回は、昨年11月1日から12月15日までこの検定を受けた方への表彰式になります。

河童のつづらの名誉館長である「柳瀬川の河童さま」が大の相撲好きということもあって、表彰は、上は横綱から、大関、関脇と相撲番付同様に認定格付が分かれています。残念ながら今回は横綱認定者がいませんでしたが、大関から十両までの40人が表彰されました。

「難しい問題が多かったし得点は二の次でいいんです。この検定を通して覚えたお宝を、今度は実際に行って自分の目で見て欲しい。また、新たなお宝を発見したら、私たちに教えて下さい。」とエコシティ志木 代表の天田さん。過去から現在に残った地域のお宝を未来に伝えていくためには、少しでも多くの人がお宝にふれ親しむことが大切なんです。

なお、表彰者の内、大人には「志木市史」、子供には「地域のカルタ」が授与されました。なお、解答者にはもちろん「河童のつづら検定～解答集～」が配られました。



「大関」認定の小学生に表彰状を手渡すエコシティ志木代表の天田さん。

第5回 川づくり見学会

白子川 見学会 & 交流会

白子川は練馬区東大泉「大泉井頭公園」の湧水を起点とし、和光市および板橋区
を流れ、板橋区三園地先において新河岸川に合流する、流路延長約10km、流域面積約25km²の河川です。

かつては武蔵野台地の湧水を集めて流れる小川で、上流の「大泉」という名の由来も白子川に湧き出
る湧水の多さからつけられと言います。しかしながら現在、戦後の急激な宅地化等によって掘り下げら
れた河道は、上流から下流のほぼ全川でコンクリートの直壁護岸を形成し、人々が川に近づくことがで
きず、生物の生息環境も決して良好とは言えない状況となっています。

今回の見学会では、「市民参加の川づくり」を呼びかけている東京理科大学工学部建築学科の生徒さん
と共に、同大が提案する大泉地区の親水水辺空間を含む、白子川の最上流からびくに公園までの約4
kmの現地見学を行った後、意見交換を行いました。

小雪の降る中を歩いて見学しました！

平成17年2月19日（土）、見学会の当日は生憎の空模様でしたが、小雪の舞い散る中参加した16
名は、「寒い」や「冷たい」と言った小言のひとつも吐かず、精力的に白子川を見て回りました。

主な見学箇所は以下の3箇所です。また、今回はバスを使わず治川（主に河川管理用通路）を歩
きながら見学しました。

◆大泉井頭公園（水源地）：七福橋～火の橋

「大泉井頭公園」は白子川の源流になります。「白子川源流・
水辺の会」木田さんから、源流付近の湧水を取り巻く自然、
都市の湧水の危うさなどについて説明がありました。

◆親水水辺空間等の提案場所：御園橋～三ツ橋

東京理科大の市川先生から、以前に親水護岸を提案した
箇所が直壁の化粧板護岸で整備されたこと、川沿いに建
設中のマンションとの共同事業の実現性などについて説
明がありました。

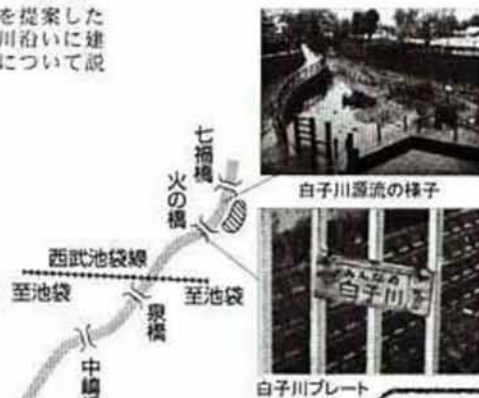
河川との一体的な整備ができなかったものかと市川先生は残念そうでした！



外山橋下流には分譲マンションが建設中です。



「八の釜憩いの森」の様子



白子川源流の様子



白子川プレート



御園橋下流の化粧板護岸

養護学校の生徒さん達と共に作る、川への親しみを示す「白子川プレート」。白子川が川沿いのプレートでいっぱいになるといいですね。

◆びくに公園（八の釜憩いの森）

「びくに公園」では「八の釜憩いの森を守り育てる会」北村さんより、八の釜憩いの森の湧水や比丘
尼橋上下流にある2つの調整池の説明などがありました。

交流会での参加者の意見など..

白子川見学会の後、練馬区立東大泉地区区民館において交流会を開催しました。
はじめに、白子川に関わる各団体等からの報告として、白子川源流・水辺の会、東京都建設局河川部
計画課、東京理科大学から説明があり、その後、質疑応答・意見交換を行いました。
なお、司会進行は砂川堀流域川づくり懇談会の永石さんにお任せしました。

<白子川に関わる各団体等からの報告>

- 「白子川源流・水辺の会」の活動報告
／「白子川源流・水辺の会」の木田さん
 - ・白子川の水質と湧水に育まれる生物について → 湧水によって、鳥や昆虫、魚類、水生植物など、多くの生物が生まれ、世代交代を繰り返している。
 - ・50mm改修の必要性を詳しく知りたい。
 - ・源流部の自然を活かした川づくりを希望したい。など
- 白子川の河川整備の取り組み／東京都建設局河川部計画課の武藤さん
 - ・東京都の河川整備の状況と白子川の河川整備の取り組みについて → 両岸に4mの河川用地を確保することや調節池による対策を実施している。など
- 白子川における市民参加の川づくり／東京理科大学の市川先生
 - ・白子川に関する河川整備提案までの経緯と提案内容、今回の経験を踏まえた市民参加の川づくりの課題・問題点について。
 - ・地域の「住民」と治川や流域に関心の高い「市民」のギャップ。
 - ・市民と行政のギャップを埋めないまま提案をしたことに対する反省と、反省点を踏まえた提案のポイント。 など



東大泉地区区民館での交流会の様子



<テーマに沿った意見交換>

- 新河岸川の他河川の状況について
 - ・川ごとに抱えている問題が違うことを感じた（不老川）。
 - ・砂川堀の上流部では農地の中の自然護岸を残しつつも護岸を崩さないようにするため、多自然型護岸にて取り組んでいる。
 - ・柳瀬川の源流は水が少ないので、白子川の湧水は羨ましい。この湧水を使わない手はない。
- 住民参加について
 - ・白子川は源流がしっかりしているの、新河岸川の中では最も住民参加の川づくりがしやすいのではないかと、きっかけさえつめれば進むと思う。川をせき止めて魚遊びをしようと、きれいな水（湧水）に触れ、川に親しむ機会を設ければ良い。
 - ・我々側の主張としては、住民は「川の良さ」をわかっていないということ、住民に「川の良さ」を分かちてもらおうと、理解してもらうための行動を起こさなければならぬ。
 - ・一つ良い河川整備の事例があれば、住民の方もわかってもらえるのではないかと。
 - ・管理用通路の内1mを、例えば花壇にするなどして、地元の人に自由に使うてもらおう。そんなことから川への関心や親しみが生まれると思う。
 - ・源流まつりの運営からみると地元自治会は協力的である。しかしながら、川づくりの会員は皆仕事を持っているので、なかなか地域住民と話せないと言う実態もある。できるだけ語らうの機会をつくってほしいと思う。
 - ・市川先生の話にもあったようにワークショップを行うことも必要だろう。
 - ・東京都の区部の川の管理は難しい。環境面での川の必要性も分かるが、住民の資産や安全を守ることをまず第一に考えなければならない。

この見学会・交流会は、新河岸川流域フォーラムと並行して継続的に活動を行うことで、川づくりへの市民の関心の醸成、また、団体間における円滑な情報交換・交流等の促進に期待し、各河川での川づくり活動の充実に資することを目的としています。

● Infomation ●○○○○○○○○○○○○○○○○○○● イベントカレンダー

エコシティ志木 イベント情報

川でつながる発表会にも出典して下さいました「出前水族館」！この春もあちらこちらの会場でお目にかかれるようです！

第9回 ハタザクラまつり（通算10回の節目に参加）

～世界に1本、志木市「市民の木」を囲んで、ひと味違ったお花見を楽しもう～

日時：4月3日(日) 午前10時～午後3時
場所：チョーショーイン跡地(志木三小となり、柳瀬川側)
主体：志木市環境推進員のつどい

参加費は共に無料、
問合せは(048-471-4257) 毛利まで



柳瀬川・野鳥ウオッチング&水族館

日時：4月16日(土) 午前9時～11時半
集合：志木中学校前の柳瀬川の土手
(1)野鳥調査 柳瀬川に沿って約4 Km 弱を散歩しながら調査
(2)魚類調査 お待たせ！柳瀬川水族館が好評です！



こちらでも好評をいただいております「こどもとおとなの自然塾」！暖かな春の日に身近な自然観察をご家族でどうぞ！

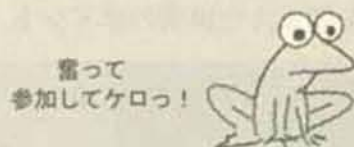
春の野草を見てみよう

日時：4月24日(日) 午前9時～11時半 ※雨天中止
集合：東武東上線「柳瀬川」駅の サミット前広場
持物：筆記用具、図鑑、スタンプカード
案内：田村キミエさん

参加費は共に200円
(中学生以下は無料、家族は全員で1名扱い)、
問合せは(048-471-2211)
志木市立教育サービスセンターまで

ツバメの子育てを見てみよう

日時：5月21日(土) 午前9時～11時半 ※雨天中止
集合：東武東上線「柳瀬川」駅の サミット前広場
持物：筆記用具、図鑑、スタンプカード
案内：毛利将範さん



白子川と流域の水環境を良くする会 お知らせ

白子川では、現在4箇所での水質調査を実施していますが、白子川と流域の水環境を良くする会では、その内、和光市の白子湧水群の調査を以下のとおり実施しています。興味のある方は是非ご参加下さい。

日 時：毎月第2土曜日 午前10時～12時 集 合：白子コミュニティセンター（ロビー）
内 容：湧水や井戸など5～6箇所の水質調査 問合せ：048-464-5545（須貝）

新所沢事務所通信

5年8ヶ月の間、ご利用ありがとうございました！

これまでご愛顧いただきました新所沢事務所は、平成17年3月27日(日)をもちまして閉鎖することとなりました。5年8ヶ月の間、新河岸川流域の皆さまにご利用いただきましたことを心より感謝いたします。なお、里川しんぶんや、当川づくり連絡会の活動についてのお問い合わせは、以下の事務局までお気軽にどうぞ！



バイバ～イ！

長年～百年までお世話になりました！

親しくなります。！

●連絡先

〒115-0042 東京都北区志茂5-41-1
新河岸川流域川づくり連絡会 事務局
(国土交通省関東地方整備局 荒川下流河川事務所 調査課内)
TEL：03-3902-3220 FAX：03-3902-2346
URL：http://www.ara.or.jp/arage/shingashi/
E-mail：shingashi@ara.or.jp